



ノカンゾウ

1、センサーカメラによる食害調査

葦毛湿原ではシラタマホシクサやサワシロギク等の秋の花が咲き始めています。今年は残暑が厳しく、秋の花の開花も遅くなっているようです。

前号で、防鹿ネットとセンサーカメラを設置したことを報告しました。今のところ、防鹿ネットを超えて動物が侵入した形跡はありません。これまでセンサーカメラは二の沢の最奥部に1台設置して動物の調査を継続していましたが、動物の食害対策のため、湿地中心部に5台のカメラを設置して監視を続けています。

1) 確認された動物

センサーカメラには予想通りニホンジカが写っていました。防鹿ネットを設置した三の沢の下流部でニホンジカが写っていましたが、三の沢の北側の四の沢でもニホンジカが複数回撮影されました。下の写真は2頭のメスが草を食べながら移動しているところです。静止画とともに4K動画でも記録されるので、草を食べているところが確認できました。

これまでに確認されたニホンジカはすべてメスで、1～2頭が写っていました。写っていたのは夜間のみで、ニホンカモシカのように日中は確認できていません。葉や茎の先端部のみを食べているようですが、この写真の現場を見ても、はっきりとした食痕は確認できません。あまり目立たない状態です。

ニホンジカは一の沢、三の沢、四の沢で確認されましたが、湿地中心部分では確認されていません。湿地中心部に来ていないのか、あるいはカメラに映らないところに来ているのかは分かりません。これからは食痕を詳細に調査する必要があると思いますが、痕跡を特定するのはむづかしい作業になりそうです。



四の沢のニホンジカ (2023年8月12日)

ニホンジカ以外には、ニホンカモシカ、ニホンイノシシ、ニホンノウサギ、ハクビシン等が写っていました。湿地中心部に設置したカメラでは、1頭のオスのニホンイノシシが地面を掘り返す様子が連続して記録されていました（下右写真）。四の沢で記録されたニホンイノシシは子供を含め10頭以上が写っていました。何頭かは沢に体を浸けて冷やしているようでしたが、これほど多くのイノシシが来ているのは予想外でした。



ニホンカモシカ（2023年8月12日）

ニホンイノシシ（2023年8月21日）

2) 動物の食痕

動物の食痕は、これまでも湿地内各地で見つけていましたが、大規模に食べられて明らかに影響があると思えるような例は確認していませんでした。カラスザンショウ等、何種類かの植物は食べられていることを確認していましたが、つまみ食い程度で頻度は高くなかったため、ニホンカモシカがたまに食べているのだろうと考えていました。

しかし、今回の調査でニホンジカの食害があるということが分かりましたので、今後は、食害の調査を本格化させる必要があると考えています。

以下の写真は四の沢の上流部で観察されたもので、下左写真はヤナギ属と思われる木の先端が食べられています。下右写真はクサギで、先端だけが食べられています。次頁の写真はスズカアザミで、やはり先端部だけが食べられています。これらの例はわかりやすい食痕ですが、これ以外にも自然歩道沿いのネザサの葉先が食べられているのが確認されており、ニホンジカによる食害が考えられます。

センサーカメラの動画では、ニホンジカが地表の植物を歩きながら食べているところを確認されましたが、葉先だけを1～2枚程度、つまみ食いしているような状態でした。



ヤナギ属？（2023年7月13日）

クサギ（2023年7月13日）



スズカアザミ（2023年7月13日）



スズカアザミ先端部拡大

2、2023年度モニタリング報告－6

1) 四の沢の変化－1

L地点の四の沢は昨年ネザサの根をバックホーで除去しました。以下の写真はネザサの根を除去した直後の状態と6か月後の状況です。いずれの地点でも湿生植物が発芽していますが、出現の度合いにはばらつきがあります。



上流部作業直後（南東から：2023年3月1日）



上流部6か月後（2023年9月5日）



上流部作業直後（北西から：2023年3月1日）



上流部6か月後（2023年9月5日）



中流部作業直後（南東から：2023年3月1日） **中流部6か月後**（2023年9月5日）



中流部作業直後（北西から：2023年3月1日） **中流部6か月後**（2023年9月5日）



下流部作業直後（南東から：2023年3月1日） **下流部6か月後**（2023年9月5日）

上流部の最奥部は斜面になって水が地表面を流れており、やや植物の発芽は少ないようです（前頁下写真）。少し下ったところは斜面が緩やかになっており、多くの湿生植物が発芽しました。しかし、一部ではイノシシによる攪乱があちこちにあり、沢の水が溜まったところはイノシシのプールになっています。

中流部は大きな礫が目立ち、植物の発芽は少なめです。下流部も水の流れ沿いは植物が少ないですが、平らになったところではやや多くの植物が発芽しています。

作業後半年でまだ全体的には植物の発芽は少ない状態ですが、一部では予想以上に植物が多く発芽しています。これはバックホーでネザサの根を除去する時に埋土種子をできる限り現地に残すやり方をした効果が表れていると思われます。（次号に続く）